

《#20 Aloe and Chemotherapy：アロエと化学療法》

Shawn：今日は、アロエの父であるビル・マカナリー博士が、アロエと化学療法について話していきます。がんなどで化学療法を受ける必要がある状況でも、アロエが本当に助けになるという話をしてもらいます。



Dr. Bill：240 人の患者をランダムに半数に分け、片方は化学療法のみ、もう一方は化学療法とアロエベラジェルを併用した研究がイタリアで行われ、私はとても興奮しました。患者は全員転移性のがんで、肺がん、大腸がん、胃がん、膵臓がんでした。現在でも全部悪性のがんです。(Shawn：おばあちゃんもこのうちのひとつだった)

これらは最も一般的ながんの中の一部です。興味深いのは、最初の 6 ヶ月時点で化学療法群は 70% が生存し、併用群は 90% 生存していたということです。そして 1 年後、化学療法群は 40%、併用群は 70%、最も印象的なのは、通常 3 年後の生存率は 3~4% なのですが、併用群では 20% でした。あなたは 4% 群と 20% 群のどちらになりたいですか？これはどの既知の化学療法を問わずです。

医師にこれ（アロエ）を取ってはいけないと言われた、と何回聞いたことでしょう。この研究を医師に見せてください、殻を破ってこれを読むべきです、教育は続けなければ。彼らは仕事のやり方を学び続けなければなりません、彼らは知らないんです。この研究は 2009 年に発表されたもので Pubmed に掲載されています。全文無料で読めます。これは間違いなく相加的なものですし、相乗効果を生む可能性が高いのです。これは私が最初に言いたいことです。

それから、これはずいぶん前のことですが、私が参加したアロエを使った研究があります。1991 年、30 年前のことです。

Shawn：ここにあなたの名前がありますよ。この人も覚えている、ボブって呼んでましたね。

Dr. Bill：ケンブ博士と私は何度もベルギーに行って、ヒトでの研究を行いました。彼はその当時テキサス A&M 所属でした。その研究で、アセマンナンがアジドチミジン (AZT) やアシクロビルと相乗的に作用し、AIDS ウイルスを阻害することがわかりました。この研究は、私たちが研究を行えるようにするためにやった一部なんです。

そして、私たちはカナダとベルギーで国際的な大きな研究を行いました。私たちがやったことは、そのグループが指示したことで、結果が出たら承認を与えてくれると言ったのに、そこへ行ったらたった一人しかなくて、あの時は 30 人いたのに、そして彼らは気が変わったんだ、基準が変わったんだと言ったんです。2 年間で何百万ドルも使った後です。すべては政治の判断で。

これは 2015 年に発表されたアロエベラの研究で、すべての種類のがんに使われているシスプラチンにアロエベラが相乗作用を持つというものです。より少ないシスプラチンでより良い効果を得ることができます。毒性はかなり低くなります。この研究も医師に見せられますね。

これは 2019 年のもので、アロエベラがマラチオンやその他の殺虫剤の毒性を下げることが示されています。たぶん除草剤でも同じことが起こるでしょう。アロエは相乗的に働くのではなく、顕著にダメージを防ぎ、保護する力を持っています。

これは 2019 年の研究ですが、今後さらに研究が進み、証明されることが増えていくでしょう。アロエが悪いという研究はひとつもありません。研究に次ぐ研究が、アロエは相加的あるいは相乗的に働くことを示しています。

だから皆さん、毎日アロエを摂った方がいいです。もし毎日摂る余裕がないなら、1 ボトル買って毎月あるいは少なくとも 2 ヶ月家族とシェアしてください。整える必要がある細胞が整っていきま、パスウェイ製品も一緒にどうぞ。

Shawn：摂らないより摂った方がいいですね。ビル博士、ありがとうございました。アロエと相乗効果について、アロエが他の化合物と一緒にどのように働くのかについて簡単にお話ししました。引き続き、本当によく働く他の植物についても話していきます。下の説明欄にビル博士が話した研究のリンクを貼っておきます。ではまた次回！

この資料を提供するにあたって

動画の内容を理解するため、個人的に翻訳したものです。

誤訳等があっても責任は負いかねます。 作成 堺晶子